

＜地域のみなさまへ＞ご報告

第211回健康講座を開催しました

2024年9月5日(木)14時より、当院3階講堂にて幣誌でも告知しておりました「健康講座」を開催させていただきました。当日は、当院の整形外科医長である岸村裕一医師が「膝・股関節の痛み、人工関節専門医が解決します。」と題し、人工関節手術についてお話させていただきました。参加していただいた地域のみなさまには、あらためて御礼申し上げます。今後も継続して実施してまいりますので、ぜひふるってご参加くださいませ。



＜医療機関のみなさまへ＞ご報告

第50回病診連携による生涯教育研修会を開催しました

2024年9月14日(土)、5区(阿倍野区/東住吉区/平野区/天王寺区/生野区)医師会さまにご共催賜り、第50回目となる「病診連携による生涯教育研修会」を都シティ大阪天王寺6階・吉野の間にて開催いたしました。

当日は、多くの地域の先生方にご参加いただき、閉会後の懇親会もおかげさまで盛況のうちに終えることができました。ご参加いただいた先生方、またシンポジストとしてご協力くださった先生方には心より御礼申し上げます。

同研修会は、来年度も同時期の開催を予定しておりますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



＜地域医療機関のみなさまへ＞活動のご報告

さらなる信頼関係を構築するために

当院は、大阪府より「紹介受診重点医療機関」として認定を受けております。地域の先生方からより多くのご紹介をしていただけるよう、日々、紹介患者数の推移を確認し、地域医療機関さまのお声を拝聴すべく、訪問計画を作成して、ごあいさつ回りなどを積極的に実施しております。今後、ご訪問のアポイントなどをとらせていただくこともあろうかと存じますが、その際は、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



当院は、メダップ株式会社さまの地域連携分析システム「foro CRM」を導入し、地域医療機関さまからの信頼を得られるよう、活動しております。

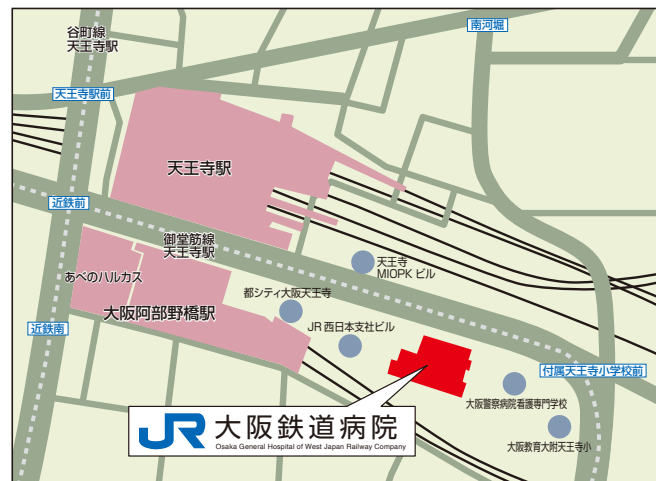
“私達は人間性を尊重し、謙虚で誠実な医療を提供します”

【基本方針】
安全で良質な医療を実践し、信頼される病院を目指します。
多機能型急性期病院としてチーム医療を推進し、継続的な医療を提供します。
地域に根ざした病院としての役割を認識し、住民の皆さんの健康増進に努めます。
地域医療機関との連携を重視し、きめ細かな医療に努めます。
専門性を追求し、医療レベルの向上と人材の育成に努めます。

JR 大阪鉄道病院
Osaka General Hospital of West Japan Railway Company

〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町1丁目2-22
TEL.06-6628-2221(代表) FAX.06-6628-2287(代表)
地域医療連携室 FAX.06-6628-4707
ホームページ <https://www.jrosakahosp.jp>

受付時間/午前8時30分～午前11時00分 診療開始/午前9時00分～
休診日/土日祝・年末年始(12月30日～1月3日)



メデイカル
ぽっぽ
よりよい医療の始発駅

volume
28
2024.12

「診療科 UPDATE」

循環器内科

ドクターインタビュー

副院長・循環器内科部長 **坂谷 知彦**

Message

医長 **志熊 明**

医長 **後藤 大輝**

活動のご報告

ぽっぽニュース

薬剤部 TOPICS
薬剤師外来開設

ようこそ臨検検査室へ
ウイルス性胃腸炎

栄養室コラム
冷えと食事

Q&A「地域医療連携室」

JR 大阪鉄道病院
Osaka General Hospital of West Japan Railway Company

人生100年の時代に寄り添う 予防医療とメンテナンス、的確な治療

2021年4月に坂谷医師が部長として赴任し、カテーテル治療への着手など積極的な改革を続けてきました。今年春には坂谷医師の副院長就任、医師スタッフの一新により、さらなる期待を集めています。

ドクターインタビュー

副院長・循環器内科部長 **坂谷 知彦** (さかたに ともひこ)

専門分野/不整脈、虚血性心疾患、心臓核医学
資格/日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本循環器学会認定循環器専門医、日本不整脈心電学会不整脈専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医、日本核医学会核医学専門医、日本不整脈心電学会「植込み型除細動器/ペースティングによる心不全治療」研修修了、日本循環器学会近畿支部評議員、臨床研修指導医講習会修了

—2021年の部長就任から約3年半、 どのようなビジョンを描いて取り組 んで来られたのでしょうか

地域住民の方に安心して循環器診療を受けていただけるような体制の構築を目指してやってきました。具体的には、まず初診外来の充実のためにも、地域の診療所の先生方(かかりつけ医)との連携を深めることを重視しました。ちょうどコロナ禍の最中で動きに制約もあり大変でしたが、研究会の開催をはじめ可能な範囲でFace to faceでお会いできる機会を設けるなど、関係性の構築に努めてきました。また、院内においても多職種カンファレンスを充実させるなど、よりスムーズな意思疎通を心がけ、チーム医療の強化につなげています。診療内容としては、新たに不整脈に対するカテーテル治療も始めました。

—初診外来も順調に伸びていると のことですね

心臓疾患の患者さんにとって、かかりつけ医の先生に紹介されてからその病院の診療を受けるまでは、落ち着かない、不安が伴う期間だと思います。しかし大きな病院だと、診療の予約が数か月先になるケースもあり、それだけ不安な期間も長引いてしまいます。当院循環器外来としてはそういったことをできるだけ少なくしてさしあげたいという思いがあり、毎日必ず常勤医が常駐する体制をつくり、初診外来においてはなるべく早く予約がとれるように、また急な病状悪化の場合などには時間外でも対応可能にしています。こうした地道な取り組みが近隣の先生方にもご理解いただけていると実感できることが増えています。



—大阪鉄道病院循環器内科の診療 方針についてお聞かせください

ホームページでは「科学的根拠に基づき、お一人ずつご希望に沿った治療をご提案します」と掲げています。これはどういうことかと言いますと、さまざまな情報が氾濫している現代、患者さんのなかには「テレビで見た」「知り合いに聞いた」など、受診される時点で不確かな情報に凝り固まってしまっている方がいらっしゃいます。しかし、私たちが医師として徹底すべきは、あくまでガイドラインに沿った標準的治療を基本にすること。それが、過去の大規模診療データから得られた知見を元に策定された、最も科学的に信頼できるものだからです。この点を押さえた上で、患者さん一人一人のご意向をしっかり伺い、年齢や状況に応じて無理のない検査と治療計画を立てていきます。近年の言葉でいうとSDM(=シェアードデシジョンメイキング：共同医療意思決定)、すなわち患者さんと医療者が意見や情報を持ち寄り共有して、最適な治療方針を決めていく方法を尊重しています。

—診療で積極的に取り組ま れていることは

さまざまな手法を駆使して、心機能低下を最大限に食い止めることを目的としています。治療としては、虚血性心疾患に対するカテーテル治療、下肢動脈狭窄に対するカテーテル治療、心房細動など不整脈に対するカテーテル治療、徐脈に対するペースメーカ治療を中心として、あらゆる疾患に対応しています。

—循環器内科医療において大切な のは何だと思われますか

ずばり予防医療です！血圧や糖尿病、脂質異常の治療目的は、すべて心筋梗塞や脳梗塞、心不全など生死にかかわる疾患の予防に尽きます。身体に症状が現れる前から治療を始めないと、後にくる身体の老化の加速も著しいのです。しかし多くの患者さんは、症状が現れない限り、治療への意欲も希薄です。人間には現状維持バイアスといって、今の状況が明日もあさってもずっと続くと言う認識があるんですね。循環器内科医としては経験的にも今のうちに正しく対処しておかないといずれ苦勞されることが予測できるだけに、患者さんにとっては耳に痛い話や厳しめの生活指導をしますが、ピンとこられない方も多いのです。数十年後の自分を想像するのは難しいかもしれませんが、いったん疾患が出現してからでは元には戻りにくく治療により多くの負担が生じてしまうこと、逆に言えば病気の予防効果が高い分野であることを認識していただければと思っています。こういった予防医療の考えをもっと広めていきたいという使命感は強く、診療所との情報共有や、健康講座など一般の方々に向けた情報発信にも力を入れています。

—この春にも新たな動きがありまし たが、今後どう言ったことに期待され ていますか

2021年4月よりお世話になってきた前田、酒本両医師がそれぞれ大学に戻り、新しく志熊医師、後藤医師が赴任してきました。学位取得後の新進気鋭の医師たちで、経験も10年前後と最もふんばりがきく世代です。すでに主なカテーテル業務をはじめ、あらゆる業務に積極的に参加してもらっていて、ふたりとも頼もしい存在です。若いだけにやる気も伸びしろもありますので、当科とともにさらに成長し、地域医療に貢献していけたらと思っています。

—誌面をご覧になる方々へのメッ セージがあればお願い致します

繰り返しになりますが、心臓病は予防可能な疾患です。自動車などの定期点検と同じで、人間も定期的に点検やメンテナンスをしないとうまく働きません。高速道路で急にエンストするような危険は誰も避けたいはずですが、早くから生活習慣の見直しなどに取り組んでいけば、病気が重くなってから治療するよりも精神的にも経済的にも格段に負担を抑えられます。また、診療時は丁寧な説明を心がけていますが、医学的用語などで不明な点があればどんどん質問をしてください。信頼できるかかりつけ医の先生と相談していただくこともおすすめします。人生100年と言われる今、一日一日を楽しく無事にお過ごしいただくため、私たちとともに健康寿命を伸ばしましょう。

心房細動の治療・カテーテルアブレーション

不整脈の一種・心房細動で投薬の治療効果が十分に得られない場合の有効な治療法が、カテーテルアブレーションです。専用のカテーテルを心臓まで挿入し、その先端から高周波電流を流して不整脈の原因となっている箇所を焼き切り、異常な電気信号が心臓全体に伝わらないようにする治療です。高い専門性と経験が求められますが、当院では熟練した医師により安全確実に行っています。当初は、高周波を用いた焼灼治療のみでしたが、現在では認定された施設のみで実施可能なクライオアブレーション(冷凍凝固アブレーション)の施設認定も受け、高い治療成績を維持しています。

<最新の装置でより正確・安全に>

当院では2023年3月にPhilips社製の最新型透視装置を導入しました。

冷凍凝固による心房細動のカテーテル治療の一例をご紹介します。

図① 心臓内でのバルーンによる冷凍凝固のイメージ(日本メドトロニック株式会社提供)

図② 基本的には透視(X線)でバルーンの位置を確認しますが、血管の走行は明瞭には確認できません。

図③ 新たに導入した透視装置は、過去に撮影したCT画像を透視のイメージに重ね合わせることで、あたかも図①のような視覚情報下で治療を行うことができます。



図①



図②

図③

Doctor MESSAGE

力を合わせて
患者さんの
よりよい人生を
サポートします



患者さん一人一人と誠実に向き合い続けたい

Doctor's eyes

医長 志熊 明

(しくま あきら)



専門分野/循環器全般
資格/日本内科学会認定内科
医、日本循環器学会認定循環
器専門医、日本心血管インター
ベンション治療学会認定医

医学生時代からずっと京都にいて、今回初めて出身地の大阪での勤務となりました。大阪鉄道病院は天王寺というターミナル駅前という便利な立地で、患者さんご紹介くださる病院も広い地域からいらっしゃるの印象的です。また、循環器内科はチーム医療の充実も魅力のひとつ。職種間の垣根がなくコミニカルもきちんと意見を伝えてくれるなど、コミュニケーションがとりやすく、よい環境にあると思います。

医師になったばかりの頃は循環器内科というと心不全などの急性期疾患への対応が主というイメージを持っていましたが、いざ関わってみると、もちろんスピード勝負のこともあります。慢性的な患者さんも多く、日常生活と向き合う長期的な視点も求められることがわかりました。それは専門医として経験を積むほどにより強く感じています。疾患だけではなく、患者さん一人一人の生活や社会的背景、人生観までしっかり頭に入れて対峙することが大切だと思ふようになりました。特に学びとなったのは、最大限の治療がその患者さんにとって最大の幸福になるとは言い切れないということ。過去には、選択した治療が負担になり結果的に患者さんのQOLが低下してしまった苦い経験もしました。その方にとって長期的な生活の質の向上が得られるかどうかを常に問い、「治療してよかった」「当院に来てよかった」と思っただけのような、患者さんにとっての最良の治療ができるよう心がけています。

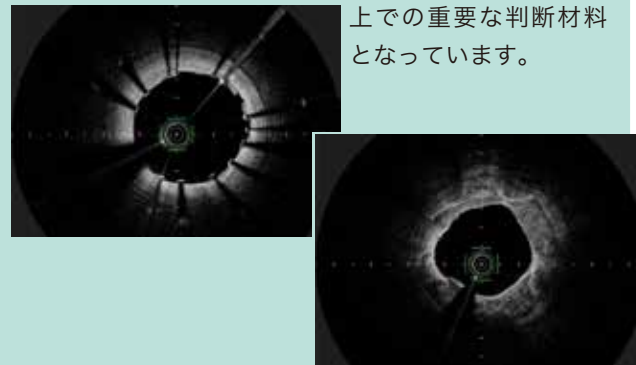
今は当院での治療が落ち着くと開業医の先生に患者さんをお戻しして、関係性が途切れてしまう場合もありますが、患者さんの人生に関わるとい意味においても、なんらかの形で見守ることができたらと思っています。そのためにも今後は地域の医療機関との連携をより密にする、あるいは通院での心臓リハビリができる環境を整えるなど、少しずつでも可能なことを探っていきたいと考えています。

「心不全パンデミック」という言葉があるように、これから高齢化が劇的に進む時代を迎えるにあたって、心臓疾患が増えていくことが予想されます。循環器内科医として今後想定される課題にどう対処していくべきかなど、常に広い視野を持って地域医療に取り組んでいきたいと思ひます。

冠動脈カテーテル治療に
欠かせない画像診断

光干渉断層法 (OCT=Optical Coherence Tomography)

坂谷部長の赴任後に導入された最新の検査法の一つで、血管内超音波検査と同様に経皮的冠動脈形成術(PCI)を施行する際に行う検査です。近赤外線を用いた血管内断層画像によって冠動脈内の様子をより詳細に評価・診断ができ、カテーテル治療の戦略を決める上での重要な判断材料となっています。



2023 年度診療実績

外来患者数 39.7 人/日

入院患者数 12.8 人/日

平均在院日数 7.9 日

【退院患者疾病統計】		【心臓カテーテル関連】	
(退院患者数)		(退院患者数)	
狭心症、慢性虚血性心疾患	191	冠動脈造影	101
心不全	104	冠動脈インターベンション	124
頻脈性不整脈	84	末梢血管インターベンション	35
閉塞性動脈疾患	36	ペースメーカー植え込み	34
徐脈性不整脈	27	カテーテルアブレーション	74
肺炎等	12	【その他検査】 (退院患者数)	
その他感染症 (真菌を除く)	11	心エコー検査	3,142
急性心筋梗塞	9	トレッドミル	140
静脈・リンパ管疾患	8	ホルター心電図	285
その他の循環器の障害	5	心筋シンチ	187
その他	38	冠動脈 CT	253

カテーテルの技術を磨き、さらなる信頼を

Doctor's eyes

医長 後藤 大輝

(ごとう だいき)



専門分野/循環器全般

まだ医学の知識に乏しかった大学時代の授業で、心筋梗塞のカテーテル治療を知り、管の入り口に小さな創ができるだけという低侵襲で心臓の治療ができることに衝撃を受けました。それが循環器内科に興味を持ったきっかけです。学んでみると、心臓も血管も原因と結果がはっきりして腑に落ちる分野であること、かつ人の命に直結することからやりがいを感じて、循環器内科の医師になることを決めました。

ひとつおりの知識や技術を身につけていくなかでも、やはり最初に興味を持ったカテーテルを極めたいという思いは強く、研修や勤務先の病院も、多くの手技を任せただけの病院を希望し、たくさんの経験を積んできました。もちろん循環器内科医としてマルチに診療できるようにもなりましたし、医療者として柔軟な対応力を持っていたいと思ひますが、カテーテル治療を行っているときには、格別のやりがいを感じます。

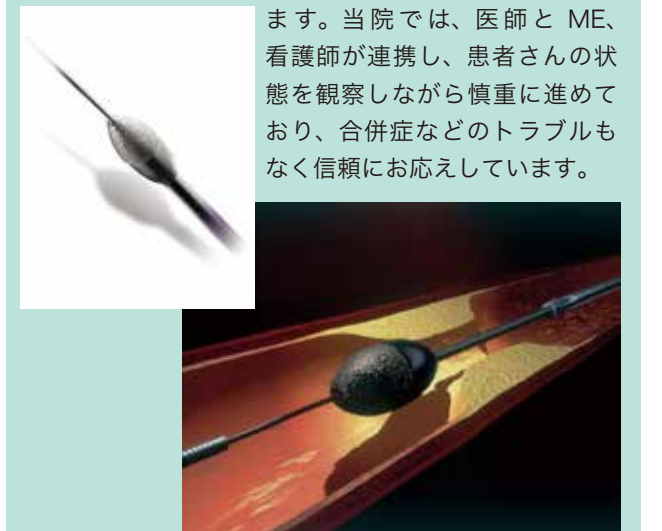
当院は自主性に委ねてもらえる環境にあり、やりたい診療や治療の方向を示すと、まわりが快く協力してくれるので、とてもありがたいです。さまざまなカテーテルをやっていききたいという思いも汲み取ってもらえ、たとえばロータブレードは従来少数例しか実績がなかったのが、私が入ってからは月1~2回のペースで担当できるようになりました。さらにこれまでの別病院での経験も生かしカテーテルのバリエーションを増やしていくのが目下の目標です。

当院は人数としては小規模ですが、カテーテルを専門にしている病院にも遜色ない力があると思っています。今後もみんなで協力しあい、レベルと実績を高めていきたいです。巨大な病院とは異なり患者さんとの距離が近く親しみやすいという病院でありながら、高い技術力で高度な医療が実践できるのは、大きなメリット。これからも技術を磨き、患者さんや開業医の先生方のご期待に応えていきたいです。

ロータブレードによる
冠動脈の治療

ロータブレードとは、カテーテルの先端に小さなダイヤモンドの粒を装着した丸い金属を高速に回転させて固いものを削り取っていく装置。心臓血管の治療のうち、石灰化によって狭窄した固い病変は、従来のバルーンでは拡張できません。そこを削り取っていくのです。

血管を傷つけない繊細な手技に加え、削りカスが詰まらないように配慮するなど、高度なスキルが求められます。当院では、医師と ME、看護師が連携し、患者さんの状態を観察しながら慎重に進めており、合併症などのトラブルもなく信頼にお応えしています。



素朴な疑問にお答えします

地域医療連携室

Q & A

患者さんやそのご家族からよくご質問いただくことをピックアップしてご回答いたします。

Q. 地域の開業医を紹介してほしいのですが、どこにどのような診療所があるのかわからない場合は、どうしたらよいのでしょうか？

A. 当院1階の待合ホールに、当院と連携登録のある診療所をご紹介させていただいております。エリアごとに紹介しておりますので、ぜひご確認ください。



Q. 連携登録をしている診療所です。登録医療機関として、大阪鉄道病院の広報誌で紹介していただくことは可能でしょうか？

A. はい、喜んでお受けいたします。当院の病院広報誌『メディカルぽっぽ』(弊誌)の直近の誌面にてご紹介させていただきます。掲載をご希望の場合は、地域医療連携室の担当(堤正規/つつみまさき)まで、ご一報ください。

『メディカルぽっぽ』配置場所：大阪鉄道病院院内、自治会、地域連携登録医療機関、JR天王寺駅、大阪駅、鶴橋駅など

このほか気になることやご質問がございましたら、気軽にお声がけください。

栄養室 コラム

冷えと食事

徐々に冷え込む日が多くなり、寒さが身にしみる季節になりましたね。もしも腰痛・肩こり・肌荒れ・気分のモヤモヤなど心身の不調を感じたら、それは冷えが原因かもしれません。服をたくさん着こむなど、外側から温めても改善が見られない場合は、食事や生活習慣を見直して体の内側から熱を生み出せる体づくりをはじめてみませんか？

冷えを改善する食事のポイント

【陽性食品の特徴】

- 以下のいずれかにあてはまるもの
- ①寒い土地が原産地
- ②冬が旬
- ③土の中で育つ(根菜)
- ④色が濃い(黒・赤・だいだいなど)
- ⑤水分が少なく固め
- ⑥塩味が強い
- ⑦発酵食品

1. 体を温める食材を摂る

東洋医学では、体を温める食材を「陽性食品」、体を冷やす食材を「陰性食材」と呼び区別しています。体を温める成分には、ビタミンE・ビタミンB1・ビタミンC・酵素・蛋白質・鉄分・ファイトケミカルなどが挙げられます。

例) 人参・れんこん・生姜・ねぎ・りんご・さくらんぼ・味噌・醤油・卵・赤身の魚・栗・黒ゴマ・紅茶・ワインなど



2. 朝食を摂る

朝食を食べると、消化管が動き出すことで熱を産生します。その熱を利用して、寝ている間に低下した体温を上昇させ、代謝を上げていきます。朝のうちに体温を上げることで、日中の冷え改善に繋がります。

また、朝食を食べる人は食べない人と比較して筋肉量が多い傾向にあることがわかっています。筋肉は1日の熱量の約4割をつくるため、筋肉量が少ないと冷えに直結します。朝食を摂り続けることで、体質的にも熱を生み出しやすくなり、冷えを改善できるかもしれません。



ようこそ臨床検査室へ

【大阪鉄道病院の臨床検査室】

冬に注意したい ウイルス性胃腸炎

検体検査部門では、患者さんより採取した検査材料から感染症などの原因となる細菌やウイルスを調べるのが仕事のひとつです。今回は、冬場が増えるウイルス性胃腸炎についてお話させていただきます。

ウイルス性胃腸炎の代表「ロタウイルス」と「ノロウイルス」

ウイルス性胃腸炎の原因としてたいへん多く、特にご注意くださいなのが「ロタウイルス」と「ノロウイルス」です。ロタウイルスへの感染は6歳くらいまでの子どもに多く、ノロウイルスは大人も含めどの年代でも見られます。いずれも感染経路や基本的な症状はほぼ同じです。

●症状は？

吐き気・嘔吐・下痢など

●原因は？

感染者の排泄物や吐物で汚染された手などを介して感染します。また、ウイルスに汚染された食品を加熱不十分で食べた場合にも起こります。

●心得ておきたい予防のポイント

他のウイルスと同様、石鹸による手洗い、うがいをしっかり行うことです。なお、アルコール消毒は効果的でないため、次亜塩素酸の消毒剤を使いましょう。



家族間での感染も多いウイルス性胃腸炎。嘔吐物や排泄物の処理の際は**手洗い**をしっかりと行いましょう。**次亜塩素酸の消毒剤**で処理するのも有効です。



薬剤部 TOPICS

薬剤部

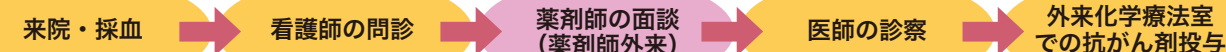
薬剤師外来開設のお知らせ

新しい取り組み「薬剤師外来」が始まりました

当院では2024年7月1日より、外来化学療法センターで治療を行う患者さんを対象に、薬剤師による診察前面談(薬剤師外来)を開始しました。

医師が診察を行う前に、薬剤師がお薬の服用状況や副作用についてお聞きし、医師に情報提供、お薬に関する提案等を行います。

診察時の流れ



薬剤師外来のメリット

- 副作用に関する情報やお薬についての提案を、医師の診察前に共有することで円滑に当日の処方や指示に反映させることができます。
- 医師の診察にかかる時間を短縮することで診察の待ち時間を短くすることができます。

現在、対象となるのは皮膚の副作用が出る可能性が高い薬を使用されている方のみですが、今後は対象となる患者さんを拡大していく予定です。

患者さんのがん化学療法が安全・安心に続けられますよう治療に貢献してまいりますので、よろしくお願いいたします。

